

宗像三女神について

宗像大社に祀られている三神は、太陽神とされる天照大神の娘と言われてい
ます。

古代の伝説

日本最古の歴史書・古事記(712年)や日本書紀(720年)によると、天照大神は彼
女の弟・素戔鳴尊と意見の相違がありました。天照大神は素戔鳴尊の剣を取り、
三つに分け、聖なる泉でその一つ一つを清め、それらを彼女の口で噛み砕いたの
ち、宗像三女神の三人の娘を吹き出しました。「霧」を意味する名前を持つ長女
の田心姫神は沖ノ島の遠方の島の沖津宮で祀られています。「渦巻く潮」を意味
する名前を持つ次女の湍津姫神は大島の中津宮で祀られています。「神宿る島」
を意味する名前を持つ三女で末娘の市杵島姫神は本土の辺津宮に祀られていま
す。

三姉妹の再会

これらの三神は海路と海の旅人の守護者として知られており、三神に敬意を表
して三社すべてで祭祀や祈祷が続けられています。日本とアジア大陸の間の航
海が長く危険だった時代に、宗像三女神は日本が世界の他の国々と結びついて
いく上で重要な役割を果たしました。その信仰は日本全国に広まり、広島県宮島
の巖島神社や神奈川県江島神社など他の重要な海辺の神社が三神を崇めるた
めに建てられました。色鮮やかな「みあれ祭」の一環として年に一度、宗像の二
つの島に宿る神々は漁船の一団に護衛され、姉妹たちは本土で再会します。